

## 瞑想する建築家ヴォ・チョン・ギア氏

ヴォ・チョン・ギア氏は、ベトナムでは著名な建築家です（1976年クアンビン省の農家生まれ）。近年、アジア出身の建築家は世界的活躍がめざましいのですが、その中でもギア氏はとりわけ大きな注目を集めています。1996年に日本政府の奨学金を得て来日し、本格的に建築を学び始めました。2002年に名古屋工業大学を卒業した後、東京大学大学院工学系研究科で社会基盤学を専攻（景観研究室）、2004年に修了しました。2006年の帰国後には、ホーチミン市に建築事務所ヴォ・チョン・ギア・アーキテツツを設立し、2010年にはハノイ支部と施工会社も設立しました。



建築家ヴォ・チョン・ギア氏

ギア氏は、当初より竹構造の建築を研究していますが、素材の処理から施工方法までを網羅する同氏のアプローチは国内外で高く評価されています。ギア氏は「人間と自然をつなげる建築」をその建築設計上のテーマとし、自然素材の活用や緑化建築などを自身のプロジェクトを通して

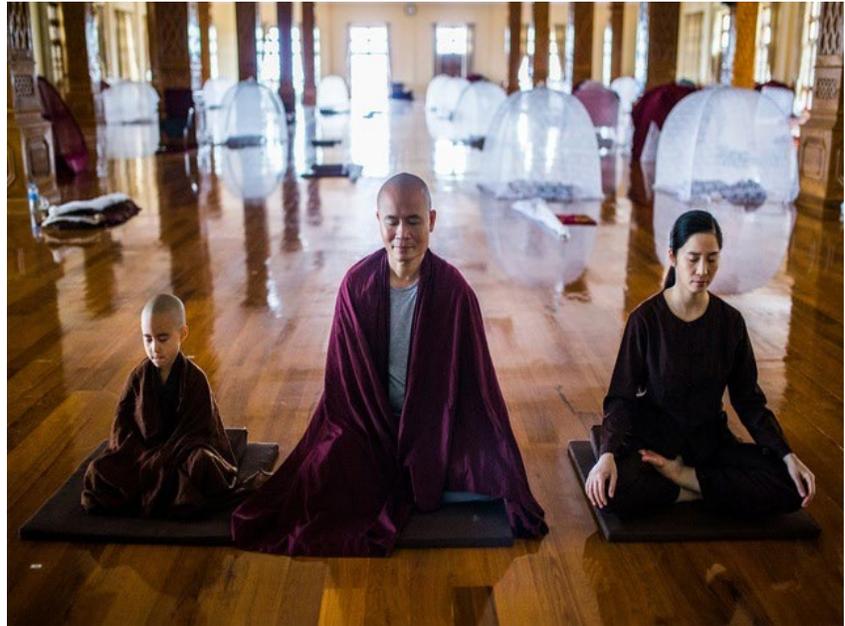
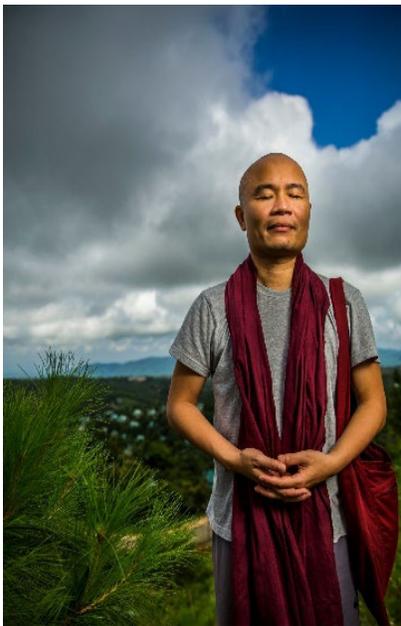


ヴォ・チョン・ギア・アーキテツツのオフィス（ホーチミン市）

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

ベトナム通信 ～当社グループ現地スタッフによる最新情報～

推進しています。また、最近は緑化だけでなく自然災害や熱環境など都市環境の改善にも取り組んでいます。ギア氏は、プリンス・クラウド賞、アジア建築家協会（ARCASIA）のビルディング・オブ・ザ・イヤーおよびゴールドメダル、アーキテクチュラル・レビュー住宅賞など数々の受賞を重ねています。2014年には世界経済フォーラムが選出するヤング・グローバル・リーダーの一人に選ばれました。ニューヨークタイムズの記事（2019年10月）によると、ギア氏は2012年から瞑想を実践しており、ミャンマーの森深い仏教僧院で2年間の瞑想活動を行っています（その間も事業は継続）。また、ヴォ・チョン・ギア・アーキテクトのスタッフ全員も毎日瞑想を行っています。ギア氏は、「都市環境を改善するアプローチを支援し、現代生活の中で人間と自然をつなげる」と表明しています。



ヴォ・チョン・ギア氏は仏教僧院で2年間を過ごす

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

## 建築家ヴォ・チョン・ギア氏の代表作



初期の作品、ベトナムのビンズオン省にある《ウィンド・アンド・ウォーター・カフェ》（2006年）は、ギア氏のトレードマークである竹を生かした建築です。この作品により、建築家ヴォ・チョン・ギアは、アジア建築家協会（ARCASIA）の2007-2008年の賞でベトナム人として初めてゴールドメダルを獲得しました。



《ファーミング・キンダーガーデン》（2013年）はホーチミン市近郊の工業都市ビエンホア市に建設された幼稚園です。巨大な靴工場に隣接していて、工場勤務者の子どもたちのために建設されました。ここでは安全な遊び場の不足・緑地の減少・農業衰退のリスクといった問題に 대응するために「農業する幼稚園」というコンセプトを示しています。



《ハウス・フォー・ツリーズ》（2014年）は極端に緑地が少ないホーチミン市タンビン区における個人邸宅です。住宅機能をいくつかの直方体の建造物に分散させ、それぞれを鉢植えのようにデザインして屋上に木を植えることで、密集地にオアシスのような空間が生まれています。この住宅では竹型枠を用いたコンクリート打ち放しの外壁が試みられました。「木のための住宅」というコンセプトには、近年のヴォ・チョン・ギア・アーキテクツの特徴がよく表われています。



低所得者用住宅《Sハウス》は2012年から開発されています。プロジェクトの対象はメコン川流域に住む低所得者層であり、現在までに3つのプロトタイプが建設されました。プロジェクトを進めるなかで「予算4,000ドル」「耐久年数30年」「建方3時間」という3つの目標が設定されました。プロジェクトの最終目標は大量供給であり、現在ヴォ・チョン・ギア・アーキテクツでは第4のプロトタイプの建設準備が進められています。

【写真提供：JVRC】 <http://www.capital-am.co.jp>

以上

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。